

柳屋綴 蝶樓筆
二篇 吉長 由 梅 出

~13
4275
4

~13
4275
3





~13
4275
3



大名類の成と良書ゆいそ御具局様
 の出巻圖の取出しるへ校物へ今むじの
 深川前仇る模様の長吉殺しへつま
 ぶらおてる長六郎の色采のあると山崎
 落の平長三平が役配をて丁度行安ふ
 田舎場ゆ流兵衛場を洗ひゆせむ折目の
 筋をそのまゝ小巻を外川の二座の映着
 表の曲道日記の深替 世田松蝶全小紋
 裏の故の糸貫の色場





○ 浅草寺
一ツ家之圖

かゝる
あんな
まじりの
草の露

家橋







Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or story related to the illustration. The text is written in a cursive style and occupies the upper and lower portions of the page, framing the central image.

世説 合二



Handwritten text in vertical columns, continuing the commentary or story from the left page. The text is written in a cursive style and occupies the upper and lower portions of the page, framing the central image.

世説 合二



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration on the right page.



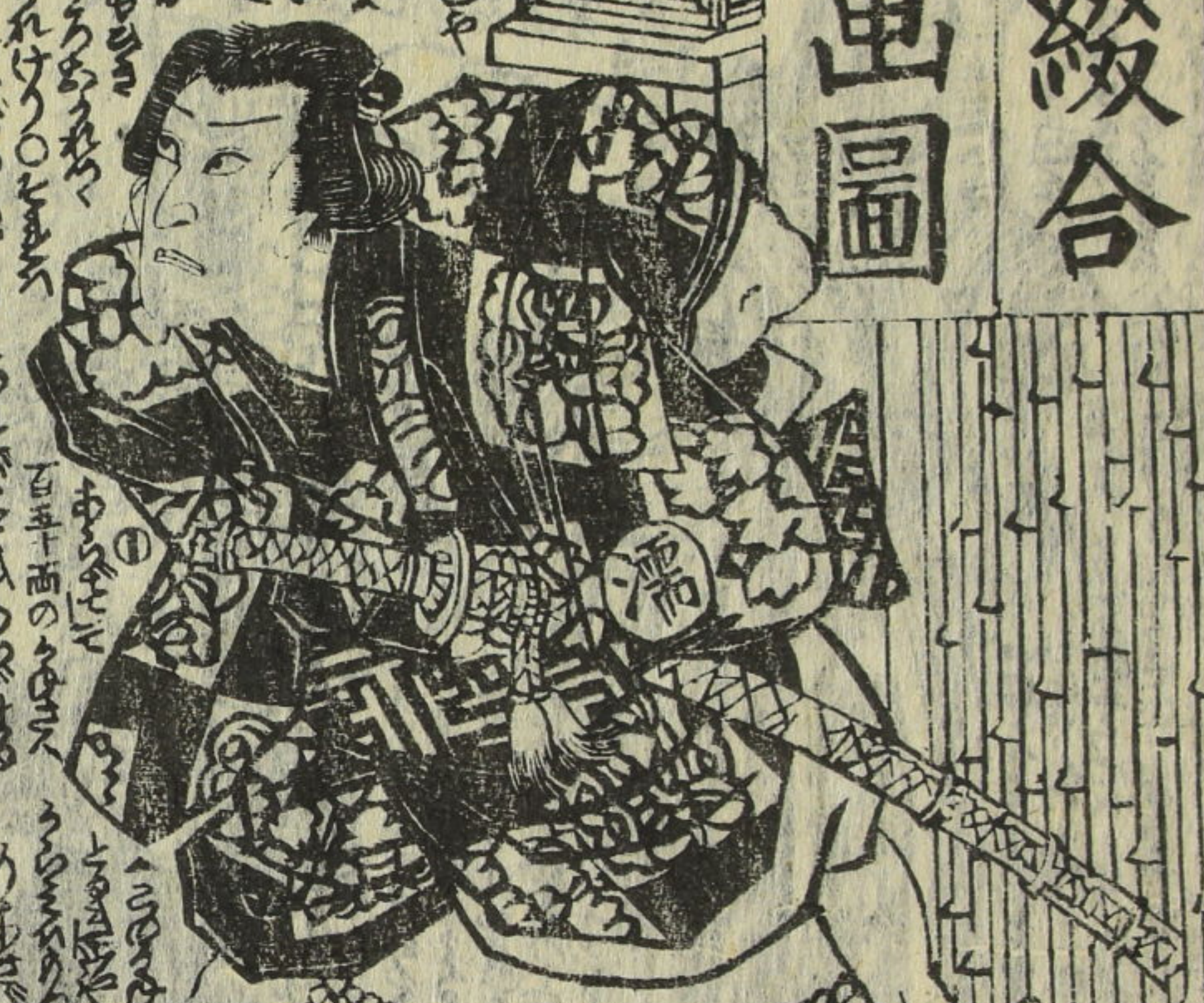
Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration on the left page.

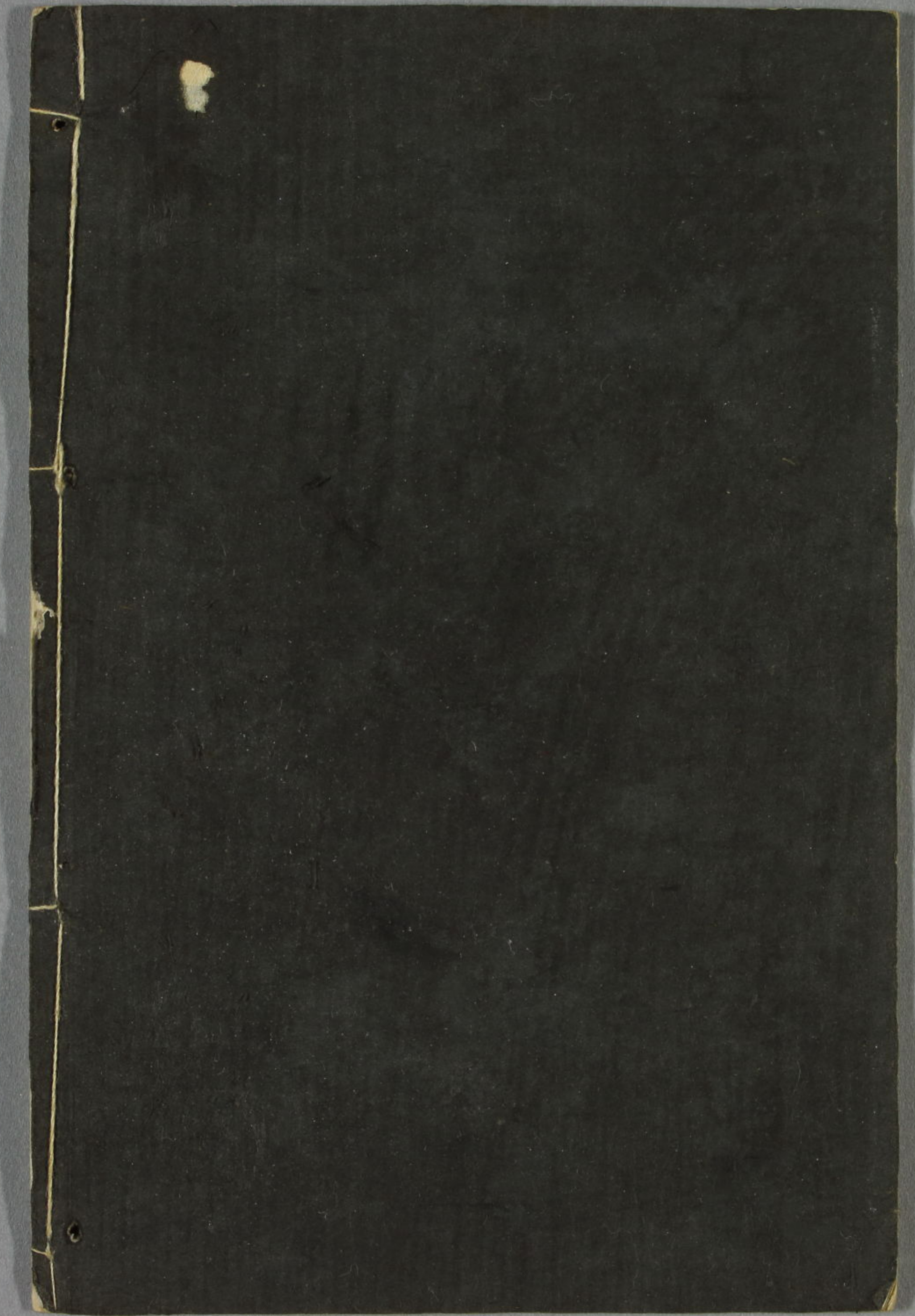


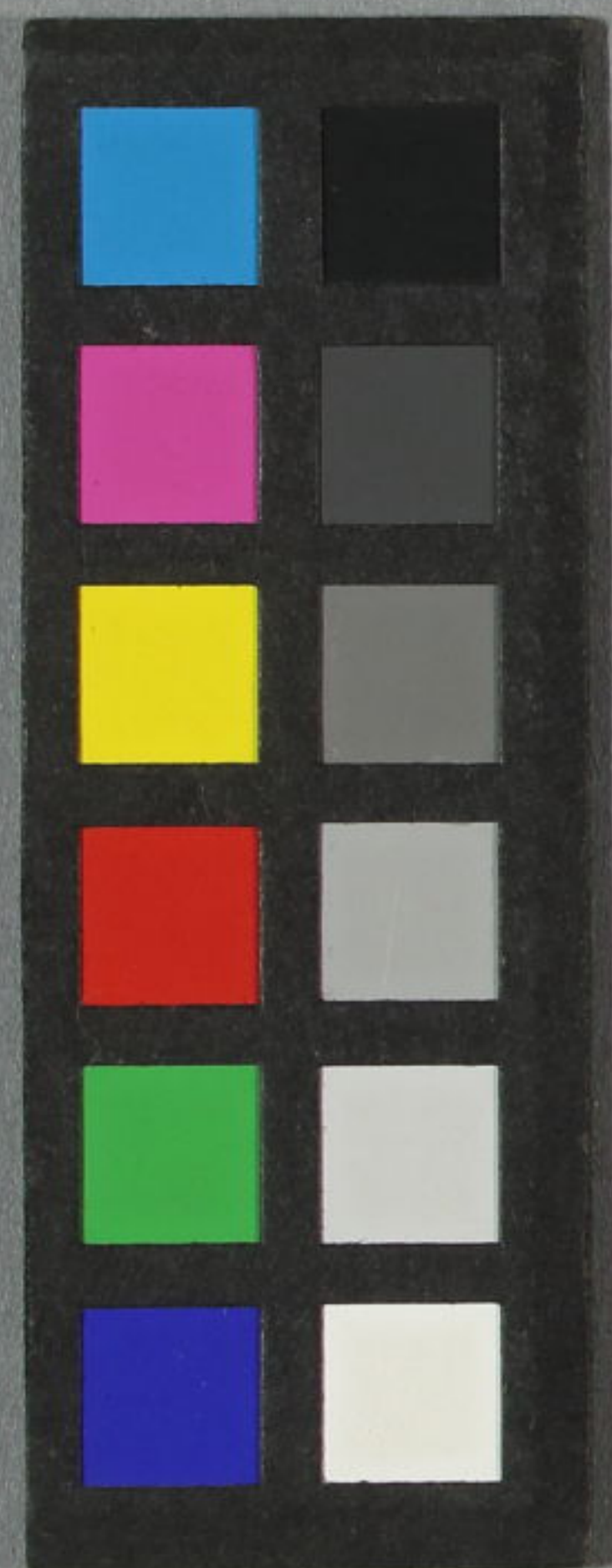
種清綴合

國貞画圖

此は種清の綴合の画圖也。種清は、
 名將にして、武勇に絶倫なり。其の
 事蹟は、史に載り、其の畫は、
 國貞の筆にして、其の神氣を、
 悉く傳へて、觀る者に、
 其の雄姿を、如く見せしむる
 也。其の畫は、墨と朱とを、
 巧みに用ひ、其の人物の、
 神氣を、如く傳へて、觀る
 者に、其の雄姿を、如く見
 せしむる也。其の畫は、墨
 と朱とを、巧みに用ひ、其
 の人物の、神氣を、如く傳
 へて、觀る者に、其の雄姿
 を、如く見せしむる也。







柳屋綴
二篇吉
長吉
由長
如長

柳屋綴
楳蝶樓筆

~13
4275
4





上
下
合
二



<92-1418>



廿四

四



世

二



廿二日

廿二



廿三日

廿三

